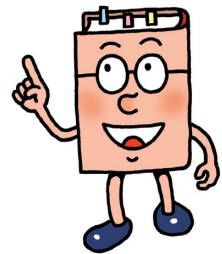


新しい漢字を学ぼう

1

●こので学ぶ漢字は、16ページから37ページで使われています。



1 — の漢字に気をつけて、つぎの文を読みま
しょう。

☐ ① 中央の階だんを上ってください。

☐ ② 上級生に漢字の読み方を教わった。

☐ ③ 新学期をむかえて、はりきっている。

☐ ④ あやまったら気持ちが軽くなった。

☐ ⑤ ころんで、ひざから少し血が出った。

☐ ⑥ 家ぞくで、海に近いみん宿にとまった。

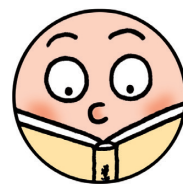
☐ ⑦ つな引きで、ぼくたちが勝った。

2 つぎの文しよつを読みましよう。

姉が合宿から帰ってきた。かばんを、二階のへやまで持っていってあげた。

[illegible]

・キ ユウ	級	・キ	期
	級		期
	級		期
・学級会 ・上級生	級	・期 間 一学期	期
	級		期
	級		期
	9画		12画
・シヨウ ・かつ	勝	・シユク ・やど／やどゝる／やど す	宿
	勝		宿
	勝		宿
・ゆう勝 ・うち勝 つ	勝	・宿直室 ・雨宿り	宿
	勝		宿
	勝		宿
	12画		11画



場面の様子を思いつかべながら読もう

おにたのぼうし

あまん きみこ 作
黒井 健 絵

せつ分の夜のことです。

まこと君が、元気に豆まきを始めました。

ばらばらばらばら

まこと君はいりたての豆を、力いっぱい投げました。

「福はあ内。おにはあ外。」

茶の間も、客間も子どもべやも、台所も、げんかんも手あらいも、ていねいにまきました。そこで、まこと君は、

「そうだ、物おき小屋にも、まかなくっちゃ。」
と言いました。

その物おき小屋の天じょうに、去年の春から、小さな黒おにの子どもが住んでいました。「おにた」

という名前でした。

おにたは、気のいいおにでした。

きのうも、まこと君に、なくしたビー玉を、こっそり拾ってきてやりました。この前は、にわか雨のとき、ほし物を、茶の間に投げこんでおきました。お父さんのくつをび



かぴかに光らせておいたこともあります。

でも、だれも、おにたがしたとは気がつきません。はずかしがりやのおにたは、見えないように、とても用心していたからです。

豆まきの音を聞きながら、おにたは思いました。
（人間っておかしいな。おには悪いって、決めているんだから。おににも、いろいろあるのにな。）

★ 気のいい

★ 用心する